

女流棋士

山口

——将棋の盤上なら
すべて断ち切っていただける、
その無機質なところが
すごくいいなと思っています。



はみだし
すてーじ

十人十色への投稿、自分でおもしろいとおもったものがさいようされないかなしさよ
⇒さて今月はどうだったのでしょうか

(理・2 トム)
(十色のページへGO!! ; 編)

今更

歩兵 棋士になるまで

——将棋を始めたきっかけは？

将棋を始めたのは小学5年生の時です。今は京大の教育学部にいる3歳下の弟が、ハリー・ポッターで出てきた動くチェスに興味を持ったんですね。それで父がジャパニーズ・チェスっていうのがあるよ、と弟に将棋を教えて、好きになってきた頃に近所に将棋教室ができたんです。その教室ではきょうだい割引があったので、私も一緒に通い始めて、私自身も将棋に惹かれてきました。

——女流棋士になることを考え始めたきっかけは？

わりと早い段階から女流棋士になるって決めていたんです。私の父の職業が少し変わっていて、草人形作家という仕事をしているんです。そのように好きなものを仕事にしている父がいたので、「習うならその道のプロになるしかない」という気持ちがありました。

——女流棋士を目指していて、その上で京大文学部に進んだのはなぜですか？

将棋界では学歴が要らないので、本当は高校にも行かずに大阪の師匠のところでプロを目指す機関に入りたかったんです。

プロを目指すなら、東京か大阪で月2回対局して成績を残さないといけなかったのですが、地元の宮崎からは交通費がかかってしまっていました。

でも中卒で大阪に住まわせてもらえるほど強くはなかったもので、しかたなく高校に行き、大阪に住めるようにお金の心配が比較的少ない国公立大学に行こうと思いました。

はじめは大阪大学の人間科学部を志望していましたが、当時やりたかったのが、心理学、社会学、哲学のどれかで、人間科学部は少し違うなと思い、高校2年生の春に京大に志望を変更しました。

文学部にしたのは、やりたいことが全部そろっていたからです。どれをやるかは入ってから決めようと思っていました。

——心理学を専攻されたきっかけは？

心理学の授業を取っていて、1限なのであんまり出てなかったのですが、珍しく出たら認知心理学の回でした。その時の話が「11歳を境に感覚的に憶えられていたことが意味付けしないと憶えられないようになる」というものでした。例えば神経衰弱で、小さい頃は「ここがハートの3だ」というだけで憶えられていたのが、大人になったら「一番下の右から3個目がハートの3だ」というふうに意味で憶えるようになるというのを聞きました。

私が将棋を始めたのはちょうど11歳の時なんですよ。だから何か意味付けしないと憶えられなかったんです。幼い頃から指してた人は「これはいい手だよ」ってよく言うけど、理由を聞くと「いい手だからいい手なんだよ」って言われて。

自分が何でそれを理解できないんだろうっていうのを解決できるかもしれないと思い、心理学を専攻することにしました。

——大学で学んだことが将棋に活かされると実感する瞬間はありますか？

卒業論文も将棋で書いたんです。視線を観察するというもので、将棋の初心者から

プロまでを集めて将棋盤を見せてみて「次どう指しますか？」という問題を出します。

考えを全部口に出しながら答えてもらって、その時々視線の動きなどを見ていきます。始めたての人はあんまり盤を見ないんですけど、中級者だと盤の色々なところを見ていて、強い人はもう盤の真ん中ぐらいいしか見ないんです。

この研究をきっかけに、対局でも相手の視線に注意するようになりました。相手がこっちの方を見ていたら攻めてきて、相手が相手自身の所を見ていたら守りの姿勢に入っているんです。

そういうことがわかってきて、相手の状況を冷静に判断できるようになりました。

——将棋と大学の両立は大変でしたか？

大変でしたね。将棋と大学と、あとは寮も。今は建て替え中の女子寮に入っていて自治会活動で会議とかがあったので、忙しかったです。

女流棋士のシステムって女流3級からプロという扱いで、私は大学2回生でプロになりました。でも、女流3級は仮プロなんです。仮免許みたいな感じで、2年の間に勝って昇級しないとアマチュアに降格させられちゃうんです。寮に入っている間はずっと勝てなくて、1年半ぐらい成績を残せなくて、結局寮を出たんですね。そうしたら1カ月で昇級しました(笑)。

当時は疲れていたんだと思います。二人部屋だったので将棋の駒の音も立てられなくて、布の盤で静かにやったりして……。でも楽しかったし、今も寮のみんなと仲がいいです。

と 棋士としての生活

—現在どのようなお仕事がありますか？

女流棋士の仕事は主に「対局」と「普及」という2つの柱があります。

「対局」は普通に目の前の相手と将棋を指すっていう仕事で、勝ち上があれば増えますが負ければ年間6日間ぐらいなので、とても生活はまかなえないんです。

「普及」の仕事は色々あって、関西将棋会館などで初心者向けの将棋教室をやったり、指導対局といって何人かを相手にして1人ずつレクチャーしたりします。他に、ちょっとアイドル的な活動もあって、写真撮影とかサイン会もします。ステージで司会をしてトークを仕切ったり、イベントの実行委員もやったりするので、結構何でも出来ないといけないうですね。

それから「大盤解説」の聞き手という仕事があって、AbemaTVやニコニコ生放送に出演しています。最近だと藤井聡太先生ふじい そうたの将棋とかの生中継されているものを、新

しくファンになられた方にもわかるよう平易な言葉で説明する仕事もやっています。

また、他には執筆業もあります。今は日本将棋連盟のホームページのコラムを書いたり、京都新聞の夕刊に月1回棋譜解説などを寄稿したりしています。それから、あまり女流棋士で書いてる人は多くないんですけど、観戦記を書くという仕事もあります。私は毎日新聞で担当させていただいています。

最近ではクリエイター業というのもやっていて、普及の一環で「将棋ノート」っていうのを販売しているんですが、それにあたり作ったパンフレットのキャラクターがノート自体より人気になってしまったんです。今年生まれただけなのにLINEスタンプもあるし、既に個展もしたんですよ。

基本的には女流棋士は個人事業主です。人によってはアイドルのようにテレビに出たりする人もいますね、竹俣紅先生とか。品

位を損なわなければ何でもしていいという雰囲気があります。



▲話題のキャラクター「平家駒音」
ひらけこまお

—最近の大体の一日のスケジュールは？

毎日違うので難しいですね。

対局がある日は10時に始まるので、7時半に起き、9時頃までには近くでお茶をして心を静め、対局に臨みます。負けた後はあんまり記憶がないのでわからないですけど、勝っても本屋さんに行くぐらいです。

AbemaTVに出るときは、早いと朝7時半にスタジオに入らないといけないうので、6時に起きて会場に行って、終わるのが夕方です。それからご飯を食べます。

まったく思ってもいなかったことを今やっていて、

観戦記を書く日は対局する人より早く部屋に入らないといけないうです。起きる時間は7時半ぐらいなんですけど、9時半から正座で待って10時に対局が始まり、「今日はこういう色の服を着ている」とかメモを取ります。それを原稿にしないといけないうので、フリーの時間に外へ出て原稿を書いて、部屋に入って、たまに抜けて。その後、感想戦があって、棋士の先生の話をもめて、終わるのが翌朝の1時で、帰って3時に寝るって感じです。トップ棋士の先生方の頭の中を伝えるのは大変ですね。

—では休日は何を？

先ほどのキャラが独立したTwitterアカウント (@HirakeGomao) を持っているんで、休みの日もわりと文章を書いているんですけど、その運営というか、おはようからおやすみまでつぶやくのがもう忙しくて(笑)。

何も無い日は外でカフェに行って過ごしたり、映画に行ったりします。人を誘うとその人が満足してくれたか気になって疲れ

るので、1人で行ってます。2人じゃないと行きにくい場所は友達と行っています。

—仕事について、大変なことは？

先ほどお話ししたように藤井先生のブームで本当に初めてという方が多いんですよ。将棋の駒の動かし方は知っていても専門用語を知らない方が多いので、その方々に説明するのは気を使います。逆に、わかる人にはもういいよって思われることもあって、裾野が広がった分誰に対して発言するかを考えるようになりました。

それから、ファンの細分化が起きています。これまでのファンは、自分が指すから将棋が好きという方が多かったんですけど、最近、推しの棋士が将棋をしている中継を見ながらカツを食べるなどして応援する「観る将」や、将棋イベントで棋士を望遠レンズで撮ったりする「撮る将」っていうファンもいるんですね。すごい人だと「手」とか部位で分けてるんです。さすがに足首とかは撮らないで欲しいけど(笑)。

いろいろなファンがいますが、でも将棋

をしないファンの方々はまだ市民権が得られてなくて批判されたりしているので、それから守るのも大変です。棋士にも色々な考え方があって、興味を持ったら指してくださいよと言う方もいるので、その中でどう言ったらいいかわからなくて、結構難しいです。本当にファンの方の発展具合がすごいので、誰に何をするかというのをちゃんと考えないといけないうと思っています。

—やりがいは何がありますか？

やはり自分が対局して勝つというのがやりがいですが、勝つときは何しても勝つんです。八百長じゃないんですけど、うまくいい手が見つかるという感じです。でも負けるときは、自分がいい将棋を指してるのになぜか相手に持っていけます。勝つのもやりがいではあるんですけど「やったー!」みたいな気持ちではなく、そういう事象が起きたって感覚です。

普及の面では、指導している際に、自分の教えた人がいい手を指せるようになると嬉しいですね。

はみだし
すてーじ

今年もジメジメし始めましたね…

→普段は2カ月前の読者カードが掲載されるのですが

(人環・院 ぽんつよ)
(夏休みをはさむと4カ月前ですね。もう秋になっちゃった。；編)

王将 棋士としての人生

——将棋の魅力とは？

今まで人との関係性の話が多かったんですけど、将棋の盤上って一番自由で、すべてを断ち切ってられる無機質なところがすごくいいと思っています。そういう感情が要らないようなところが好きです。

人と接するときはプラスな感情を持つようにしているんですけど、将棋盤は無感情で接して、ただそこに答えがあるからそれを探していけばいい。一人っきりになって一つのものに向かっていくみたいな感じです。相手がどう思っているかじゃなくて自分の心だけで戦っていればいいので、ある意味で一番役割が少ないんですよ。今日は私のための日だ、みたいな気分で指してるので。将棋を指しているときはすごく集中していて、自分っていうものもないぐらいに考えて、潜って、そして終わったら現実世界に戻ってくるっていうイメージがあって、そういうところも好きです。

——対局の際に心がけていることや前もって準備していることは？

まず対局が決まって相手が決まったら、計画を立ててその日までに相手がどういう将棋をする人かを調べて、自分はどの場合にどの手を指すのかというイメージを練っていきます。先攻と後攻はその日に決まることが多いので、自分が先攻だったらこれをやる、後攻だったらこれをやる、という程度のプランを決めて当日に臨んでいます。

体調管理も大事なので、もちろん前日はお酒を飲まないですし、仕事も極力入れないようにしています。

それから当日は人のことを見ないようにします。対局中ってみんな傍若無人というか、バリバリお菓子食べる人もいるし、変わった方だとマイ空気清浄機を持ってくる人もいますよ。それは本人の自由なんですけど、気にしだすというんな所作が気になるし、誰もしゃべらないので音一つ一つ

を拾ってしまうんです。それが疲れるので、注意は自分と盤の面積までしか払わないっていうのを気を付けています。

まあ、反射で動いちゃうこともあります。前に相手がお茶をこぼしたとき、自分がお手拭きを取りに行ってしまうと、勝負師の行動ではなかったなって思いました（笑）。相手のマイナスだからそのままにしておけばよかったのに、助けようとしちゃって。冷たいわけではないんですけど、全部を勝負として捉え、相手に優しくしてはいけないっていうのはずっと言われてきています。

ON/OFFの切り替えはやはり難しいですね。自分が運営するイベントが15人規模でも、人がそれだけ動く大変で……。その後食事に行っても店員さん並みに気が張って、全部のテーブルの会話が聞こえることがありますごく疲れてしまいます。その後3日間ぐらいは過敏なので独りで過ごして、なんとか気を紛らわすという感じです。

こういう喜びの形もあるのかなって思っています。

——記憶に残っている対局や自分を変えた対局というのはありますか？

小学6年生のときにJTのこども大会っていう大きい大会で、すごく集中してゾーンみたいなのに入れたんですよ。絶対勝てないと思ってたのに準決勝ぐらいまでいきました。その集中する感じが好きで、以降



それを支えに将棋を続けています。

あとは、アマチュア三段のときの、優勝したら四段になれるという県大会です。その時私は受験生で、一週間後に高校受験が控えていたんです。しかも、それまで3回ぐらい準決勝や決勝で負けていて、ボロボロの状態で行ったんです。「うわヤバイ」と思ったら、突然パッと盤が光って、銀を打つとめっちゃくちゃいいって気付いて、その対局で勝って、その後も勝ち続けて優勝したんですよ。普通は光らないしその後も光ってくれ一って思うけど光らないので、「勝ちに不思議な勝ちあり」じゃないんですけど、ああ、勝つべきときは勝つんだなど。ギリギリのところで嬉しいことがあったので、将棋と縁があるんだと思いましたね。

——今後の目標や夢はありますか？

先ほどのキャラクターの話のように、まったく自分がやりたいと思ってなかったことを今やっていて、書き物をしたりギャラリーをしたり。これって普通は棋士の仕

事ではないじゃないですか。観戦記も思ってもない所から頂いた話ですし。こういう喜びの形もあるのかなって感じていますし、柔軟に生きていきたいな、と思っています。

「私は勝負で生きていく」ってのはねつけず、自分がそのときいいなと思ったらそれをするし、将棋をずっと好きでいたら嬉しいと思うし、自分の一番やりたいことを常々やっていきたいです。

——最後に京大生に対してメッセージをお願いします。

狂うなら今のうちってことじゃないですかね。私は自由な職業ですけど、思ったより守らなきゃいけないことが多いんですよ。女性だからお化粧をしなきゃいけないし、人を立てるのも暗黙の了解で守らなきゃいけない。あんまり狂えるというか、好きなようにできるというのはそんなにないので、大学時代のうちに自分の外郭を知っておいた方がいいんじゃないかなと思いますね。社会に出ると狭い窮屈なので、今のうちに羽を伸ばしてほしいです。

はみだし
すてーじ

芋、栗、カボチャがおいしい季節になった…
→こちらは季節に合わせてあって

(エネ科・院 きゅーり)
(かなり高レベルな投稿ですね；編)